

那珂市の「城」跡

那珂市歴史民俗資料館



瓜連城濠跡

那珂市には額田城跡・南酒出城跡・戸村城跡・瓜連城跡・古徳城跡・城菩提城跡・江戸城跡・北酒出城跡の8か所の城跡があつたとされますが、江戸城跡と北酒出城跡の位置は明確ではありません。

瓜連城は、鎌倉幕府の執権北条時頼の子桜田禪師時厳・貞国父子時代から築城が進められていたと思われます。その後建武新政権となって南朝方の楠木正家が入り、城の修築を進めながらおよそ1年間、北朝方の佐竹義篤・貞義父子らの軍勢と戦いました。瓜連城は、

中郡(桜川市)・西明寺(栃木県益子町)・伊佐城(筑西市中館)・小田城・関城・大宝城の南朝方関東六城をはじめ笠間城・真壁城・那珂西城などと南朝方の有力拠点であり、奥州の北畠顕家軍と結び、佐竹氏の南進を押さえる重要な役割も果たしていました。建武3年(延元元年1336)12月楠木正家が佐竹軍に敗北して落城し、以後は廃城になったと思われます。やがてこの城跡へ、常福寺が移ってきます。

南酒出城は佐竹本家第3代秀義の第三子義茂が築城し、北酒出城は佐竹秀義の第六子助義が築城しました。両氏とも承久の乱(1221)には佐竹本家と共に北条泰時に従って出陣し、宇治巻島の戦いで後鳥羽上皇を敗走させる軍功をあげています。この結果、本家佐竹氏は美濃国山田郷の地頭になり、南酒出・北酒出の両家は美濃に領地を得て移住しました。これにより北酒出は廃城となりましたが、南酒出城は留守居が置かれてその後も続き、現在も城跡の深い堀と高い土塁とがはっきりと残っています。

戸村城は、はじめ藤原秀郷系統の那珂太郎の子孫能通(戸村小三郎)が鎌倉時代初期に築き、その子通基は承久の乱では北条泰時の軍に従い宇治巻島渡河戦で活躍した。しかし、南北朝の戦いでは南朝方に与して那珂通辰らと共に敗退し滅亡しました(前の戸村氏)。その後佐竹本家の義倭(南殿)が入って城を改修しながら勢力を拡大(後の戸村氏)、佐竹本家と江戸氏との対立を収め、義和は額田城攻撃や豊臣秀吉の朝鮮の役にも出兵しています(朝鮮で病死)。佐竹本家の義重・義宣父子の秋田移封とともに義国も移り、やがて義連の代には横手城代となりました。戸村城跡はかなり開発されて住宅地となり、わずかに堀と土塁の跡を残すのみとなっています。

古徳城は白鳥の飛来で知られる古徳池の背後の小高い山上(勢揃い山)に堀と土塁が残っており、各郭の様子がわかります。「古徳永正記」には永和元年(1375)に大掾氏系の義純が移住、やがて江戸氏の家臣となりましたが、永正7年(1510)義優が主家の江戸道泰との抗争に敗れて滅亡したとされています。

江戸城は、南北朝時代に那珂通辰が南朝方の瓜連城と共に北朝方の佐竹氏と戦って敗れた後、通辰の子通泰が足利尊氏に就いて下江戸に城を構えたとされています。



(戸村城)